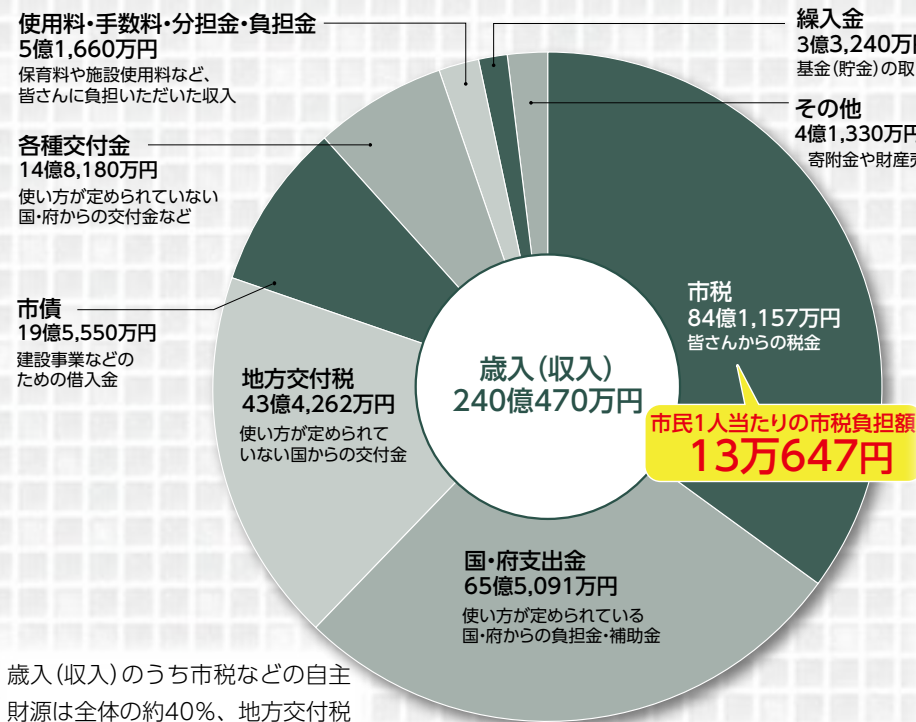




一般会計 (歳入)

決算額は、240億470万円で、前年度と比較して4.2%増加しています。



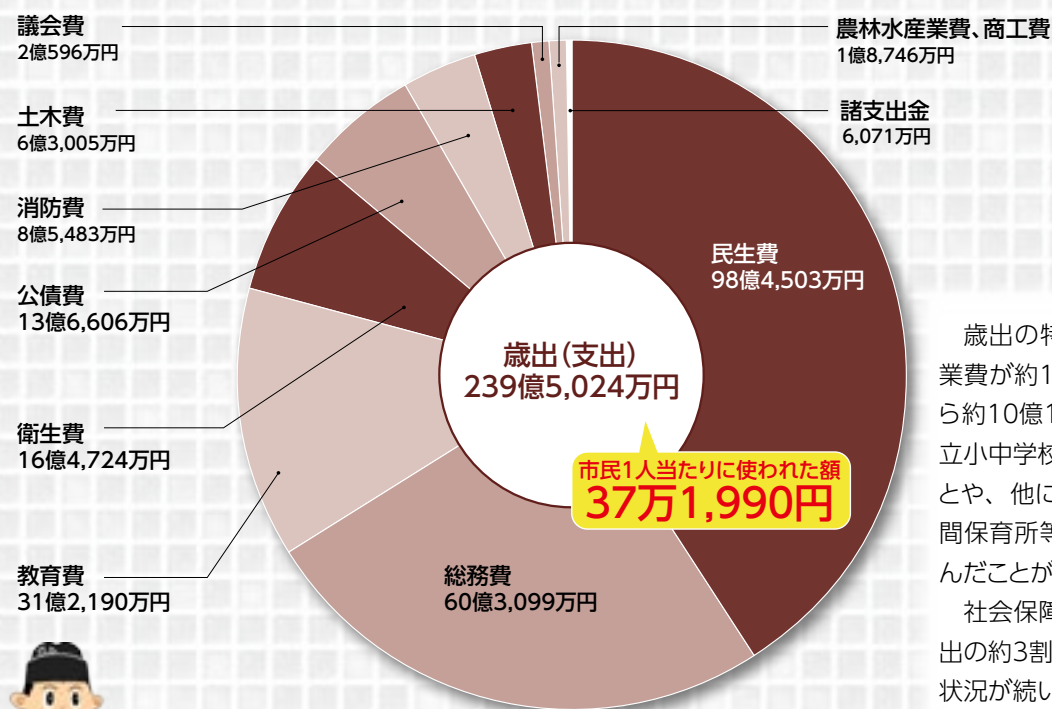
歳入(収入)のうち市税などの自主財源は全体の約40%、地方交付税などの依存財源は約60%を占めており、地方交付税などに大きく依存した財政構造となっています。

決算額が増加した主な要因は、
・収入の根幹である市税が約84億1千万円で、前年度から約2千万円増加したこと
・各種交付金のうち、地方特例交付金が約1億8千万円で、子ども・子育て支援臨時交付金が創設されたことに伴い、前年度から約1億2千万円増加したこと
などが挙げられます。
繰入金は約3億3千万円であり、そのうち財政調整基金(貯金)の繰入が2億5千万円となっています。

市民1人当たりの市税負担額
13万647円

一般会計 (歳出)

決算額は、約239億5,024万円で、前年度と比較して5.5%増加しています。



歳出の特徴としては、普通建設事業費が約18億1千万円で、前年度から約10億1千万円増加しました。市立小中学校空調PFI事業を実施したことや、他にも史跡買い上げ事業や民間保育所等施設整備事業等に取り組んだことが大きな要因です。
社会保障関係経費(扶助費等)も歳出の約3割を占めるなど、厳しい財政状況が続いています。

市民1人当たりに使われた額
37万1,990円

様々な行政課題に対応していくために、「藤井寺市行財政改革指針」(令和2年5月策定)に基づいて行財政改革に取り組み、持続可能で健全な財政基盤を確立し、安定した行財政運営を進めていきます。

藤井寺市の財政のようす

～令和元年度決算の報告～

皆さんからの税金がどのように使われたかなど、令和元年度の市の財政についてお知らせします。

問合先 行財政管理課 財政担当(5階㊟番窓口) ☎939・1014

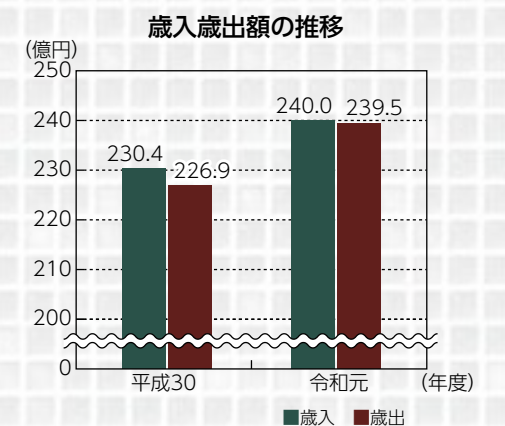
決算報告 (一般会計)

令和元年度一般会計決算は、財政調整基金(貯金)を取り崩して、1,697万円の黒字となりました。

	令和元年度 決算額	平成30年度 決算額	対前年度 増減額
歳入	240億 470万円	230億3,835万円	9億6,635万円
歳出	239億5,024万円	226億9,286万円	12億5,738万円
形式収支※1	5,447万円	3億4,549万円	－2億9,102万円
繰越財源※2	3,750万円	4,007万円	－257万円
実質収支	1,697万円	3億 543万円	－2億8,846万円

※1 「歳入－歳出」の金額

※2 予定していた事業を繰り越して翌年度に行うために確保しておく財源



令和元年度に各分野で支出した金額を
市民1人あたりに換算すると…

1人あたり **37万1,990円**
使われました！

民生費 15万2,911円 生活保護、子育て支援、高齢者、障害者福祉など	総務費 9万3,672円 市役所運営、防犯や災害対策、租税に関するものなど	教育費 4万8,489円 幼稚園・小中学校教育、生涯学習、スポーツ振興など	衛生費 2万5,585円 健康推進や病気の予防、ごみ処理など	公債費 2万1,217円 市債(借入金)〔元金・利子〕の返済
消防費 1万3,277円 消防組合や消防団の活動など	土木費 9,786円 道路や公園の整備、交通安全対策など	議会費 3,199円 市議会の運営	農林水産業費 商工費 2,911円 農業や商工業の振興など	諸支出金 943円 預金利子などの積立

市立幼稚園耐震補強事業

3,740万円



園児の安全性を高めるため、藤井寺南幼稚園の耐震補強工事を行いました。また、藤井寺幼稚園と道明寺南幼稚園の耐震補強工事の設計を実施しました。

子ども家庭総合支援拠点運営事業

148万円



児童などに対する必要な支援(相談・調査・訪問など)を行うための人員を配置し、児童虐待防止対策などの体制を強化しました。

ふじみ緑地民間保育施設等誘致事業

2億3,316万円



ふじみ緑地に民間事業者を誘致し、地域子育て支援拠点事業及び病児保育事業(病後児対応型)を併設した保育所を新たに整備しました。

令和元年度に実施した

主な事業

令和元年度は第五次藤井寺市総合計画の4年目にあたり、「住みたいまち」「訪れたいまち」「住み続けたいまち」の実現を目指し、重点戦略として、「子ども・子育て安心プロジェクト」「まちなかにぎわいアッププロジェクト」「いきいき長寿プロジェクト」を掲げ、様々な施策に取り組みました。

市民総合会館改修・整備事業

1,563万円



市民総合会館本館アプローチ床の改修工事を実施しました。

市立小中学校空調PFI事業

8億5,431万円



学習環境の向上のため、民間の技術やノウハウを活用するPFI手法を活用し、全ての市立小中学校の各教室に空調設備を整備しました。

世界遺産登録推進事業

884万円



令和元年度に世界文化遺産に登録された「百舌鳥・古市古墳群」に関連し、関係団体と連携した取り組みを行いました。

史跡古市古墳群整備事業

1,241万円



史跡古市古墳群を構成する津堂城山古墳の墳丘損傷部分の緊急整備工事を行いました。

橋梁長寿命化事業

2,431万円



橋梁個別施設計画に基づき、定期点検を行い、損傷が認められた橋梁の補修事業を実施しました。

藤井寺駅周辺整備事業

1,446万円



市民や事業者、関係団体が連携したにぎわいのあるまちづくりの推進及び藤井寺駅北地区における区画整理事業を行いました。

まちなみ景観整備事業

5,330万円



歴史的なまちなみ景観の保全と魅力的な空間づくりのため、葛井寺南大門前の周辺道路を石畳調にするなど景観整備を実施しました。(令和2年5月工事完了)

地域ビジネス創造プロモーション事業

991万円

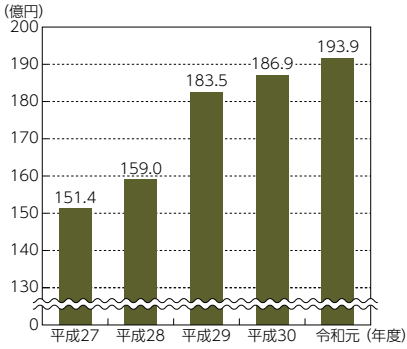


まちなか観光の促進や地域内経済循環の拡大を図るため、地域製品の開発及び市内外へのプロモーション活動などを実施しました。

一般会計
財政状況

市債残高
基金残高
経常収支比率
市の財産

市債残高
市民1人あたり 30万1,204円



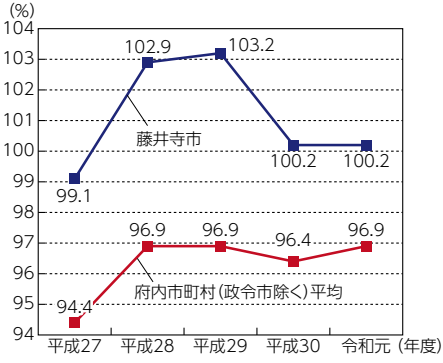
令和元年度末の市債残高(借金)は市立小中学校空調PFI事業等を実施したことに伴い、前年度比で約7億1千万円増加して約193億9千万円となりました。

後年度負担である公債費の増加は確実にあることから、今後の普通建設事業の実施は公債費の将来推計も踏まえ、慎重に検討する必要があります。

経常収支比率

令和元年度の経常収支比率は前年度と変わらず100.2%となりました。4年連続で100%を超え、依然として経常的な収入で経常的な支出を賄えていないという厳しい財政状況が続いています。

通常毎年入ってくると考えられる収入で、通常毎年出ていくと考えられる支出をどの程度賄えているかを表す指標



市の財産

(単位: m)

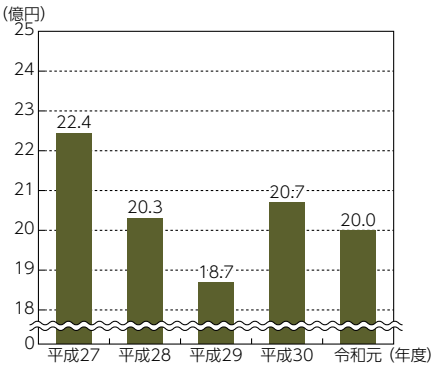
区分	土地	建物
公用財産 ※3	19,687	18,848
公共用財産など ※4	516,514	110,058
その他	2,237	80
合計	538,438	128,986

(令和2年3月末現在)

※3 庁舎など市の事務又は事業を行うため、市が直接使用する財産
※4 市民総合会館、図書館など一般的に市民の皆さんが利用する財産

基金残高

市民1人あたり 3万998円



基金名	残高
財政調整基金 ※1	14億9334万円
減債基金 ※2	1億7,185万円
公共施設整備基金	2億1,286万円
福祉基金	732万円
国際交流基金	302万円
古代史料整備基金	2,633万円
職員退職手当基金	14万円
市民病院施設整備基金	3,725万円
ふるさとまちづくり応援基金	4,117万円
森林環境譲与税基金	247万円
合計	19億9,575万円

(令和2年5月末現在)

基金は条例に基づいて設置され、特定の目的のために活用することができます。令和元年度末の基金残高(貯金)は前年度比で7,169万円減の19億9,575万円となっています。

それぞれの項目で四捨五入しているため、集計が合わないことがあります。
※1 災害復旧や収支不足が生じたときに積み立てている基金 ※2 市債の償還のために積み立てている基金

※市民1人あたりとは、令和2年3月31日現在の人口(64,384人)で割った金額。

財政健全化の指標

すべての比率において 基準内

令和元年度決算に基づく各比率(指標)は、前年度と同様にいずれも国の基準(早期健全化基準)を下回っています(令和元年度決算の実質収支が黒字のため、実質赤字比率及び連結実質赤字比率は、「-」と表示しています)。

しかし、市債残高の増加に伴い、「実質公債費比率」「将来負担比率」は上昇することが見込まれます。今後も「早期健全化団体」「財政再生団体」に陥らないよう、財政健全化の取り組みを引き続き進めていきます。

指標名/基準となる数値・説明	藤井寺市の値	
	令和元年度	平成30年度
実質赤字比率	■ 12.88%、■ 20.0%	-
一般会計等の実質的な赤字額が標準的な収入に対してどれくらいの割合かを示す指標	-	-
連結実質赤字比率	■ 17.88%、■ 30.0%	-
一般会計等に特別会計・企業会計を合わせた市全体の实質的な赤字額が標準的な収入に対してどれくらいの割合かを示す指標	-	-
実質公債費比率	■ 25.0%、■ 35.0%	1.5%
一般会計等の実質的な借入金の返済額が標準的な収入に対してどれくらいの割合かを示す指標	1.5%	1.5%
将来負担比率	■ 350.0%、■ -	75.8%
一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の残高が標準的な収入に対してどれくらいの割合かを示す指標	75.8%	39.5%
資金不足比率	■ 20.0%(※)	-
公営企業の資金不足額が事業の規模に対してどのくらいの割合になるのかを示す指標	-	-

▲ ■ 早期健全化基準(イエローカード)、(※)は経営健全化基準(イエローカード)
■ 財政再生基準(レッドカード) (いずれも令和元年度の国の基準)

ふるさとまちづくり応援寄附金の使い道

①子育て支援又は教育の推進に関する事業

364件 406万円



保育所、こども園、幼稚園、小学校、中学校の

- ・備品購入 79万円
- ・図書購入 327万円

②福祉又は医療の充実に関する事業

124件 189万円



- ・ふれあい支援事業 168万円
- ・福祉のまちづくり条例に基づく改修事業 8万円
- ・あんしん歩行エリア整備 13万円

⑤歴史的又は文化的な遺産の保全に関する事業

88件 119万円



- ・文化財用地管理事業 119万円

⑥都市基盤の充実又は安全なまちづくりに関する事業

41件 63万円



- ・道路環境整備 63万円

③観光又は産業の振興に関する事業

54件 87万円



- ・シティプロモーション推進事業 75万円
- ・来訪者受入対策事業 12万円

④スポーツの振興又は青少年の健全育成に関する事業

49件 41万円



- ・FUJIRりんぴっく関連事業 1万円
- ・屋外体育施設管理事業 20万円
- ・市民総合体育館管理事業 20万円

⑦まちの魅力をPRする事業

22件 32万円



- ・ふるさとまちづくり応援寄附金事業 32万円

⑧①から⑦以外で市長が必要と認める事業

646件 546万円



- ・市営火葬場管理事業 200万円
- ・図書館資料充実事業 346万円

駐車場特別会計

藤井寺駅南駐輪・駐車場にかかる経費です。平成30年度決算に引き継ぎ、1,660万円の黒字（前年度繰越金 610 万円含む）となりました。

歳入		歳出	
使用料及び手数料	3,512 万円	駐車場費(駐車場の運営にかかる経費)	2,468万円
前年度繰越金	610 万円	その他	1 万円
その他	7 万円	合計	2,469万円
合計	4,129 万円		
		歳入－歳出	1,660万円

問合せ先 まち保全課駐車場・自転車等担当(4階④番窓口) ☎939・1206

令和元年度 企業会計決算

病院事業

令和元年度の入院年間患者数は 25,324 人、1 日当たり患者数は 69.2人、病床利用率は 70.6%でした。

また、外来年間患者数は 51,846 人で、1 日当たり患者数では 177.6 人でした。

令和元年度は、医療情報システム、内視鏡、血球係数器等の更新を行い、医療機器の充実を図りました。

収益的収支 ※1	
収入	22億4,598万円
支出	24億2,179万円
資本的収支 ※2	
収入	1億 8,962万円
支出	2億 3,224万円

問合せ先 藤井寺市民病院事務局庶務担当 ☎939・7031

水道事業

平成31年3月末と比較して、令和2年 3 月末時点の決算値は、給水人口が337人減少の65,274人、給水戸数が18 戸増加の 26,220 戸、年間総有収水量が 1,510㎥増加の 6,744,323㎥でした。

水道施設整備事業では、平成 28 年度から令和 2 年度までの継続事業として、道明寺浄水場の自己水関連施設の更新工事を行っています。また、配水管整備事業では、配水管の耐震化を進めています。

収益的収支 ※1	
収入	14億6,510 万円
支出	12億7,446 万円
資本的収支 ※2	
収入	7億 9,841 万円
支出	11億 7,126 万円

問合せ先 水道局庶務課(4階④番窓口) ☎939・1302

公共下水道事業

令和元年度の下水道普及率は 81.6%、年間有収水量は 4,743,220㎥でした。

今後も引き続き未普及地域の下水道整備を進めるとともに、小山水雨ポンプ場及び北條雨水ポンプ場について、改築更新工事を行っています。

なお、令和元年度決算は、企業会計への移行後初めての決算となっています。

収益的収支 ※1	
収入	20億7,049万円
支出	20億2,614万円
資本的収支 ※2	
収入	21億 3,602万円
支出	27億 2,927万円

問合せ先 下水道総務課業務担当 (2階⑥番窓口) ☎939・1265

▲※1：収益的収支…通常の経営活動に伴う収支で、サービス提供に対する料金などの収入と、施設を維持管理する費用や人件費、借入金の支払利息などの支出 ※2：資本的収支…施設や設備の整備などに伴う収支で、国からの借入金や負担金などの収入と、工事費や機器などの購入費、借入金の元金償還金などの支出

令和元年度 特別会計決算

国民健康保険特別会計

国民健康保険料や府からの交付金などを主な財源として、医療給付や保健事業などを行っています。

令和元年度決算は、歳入76億5,398 万円、歳出71億8,731万円で、4億6,667万円の黒字になりました。

なお、黒字分には前年度からの繰越金 3億122 万円が含まれています。

令和元年度末の被保険者数は 14,497人で、前年度と比較して516人(3.4%)減少しました。保険給付費は 49億1,944 万円で、被保険者数の減少などにより前年度と比較して 1億6,567 万円(3.2%)減少しましたが、1人当たり医療費は増加傾向が続いています。

歳入		歳出	
府支出金	50億6,441万円	保険給付費	49億1,944万円
国庫支出金	590万円	国保事業費納付金	20億3,960万円
国民健康保険料	14億2,637万円	総務費	1億6,062万円
繰入金(市の負担金)	8億3,142万円	保健事業費	5,890万円
繰越金	3億 122万円	その他支出	876万円
その他収入	2,466万円	合計	71億8,731万円
合計	76億5,398万円		
		歳入－歳出	4億6,667万円

問合せ先 保険年金課国民健康保険担当(1階②番窓口) ☎939・1177

後期高齢者医療特別会計

後期高齢者医療制度は、運営主体である大阪府後期高齢者医療広域連合と市で事務分担をしています。市では後期高齢者医療保険料や市の負担金を主

な財源とし、各種申請や届出の受け付け、保険料の徴収などを行っています。黒字収支となっていますが、これは令和2年度に広域連合へ納付する保険料などです。令和元年度末被保険者は9,307人で、前年度と比較すると2%増加しています。

歳入		歳出	
後期高齢者医療保険料(加入者の保険料)	7億9,565万円	後期高齢者医療広域連合納付金(保険料等納付金・保険基盤安定負担金)	9億8,732万円
繰入金(市の負担金)	1億7,656万円	総務費	852万円
繰越金	3,232万円	諸支出金	191万円
その他	17万円	合計	9億9,776万円
合計	10億 470万円		
		歳入－歳出	694万円

問合せ先 保険年金課福祉医療担当(1階②番窓口) ☎939・1186

介護保険特別会計

市内の令和元年度末の65歳以上の高齢者は 18,260人で、人口に占める割合は28.4%となり、前年度と比較して0.3ポイント上昇しています。

介護サービスの提供にかかる費用のうち、市が支払った費用である保険給付費は、高齢者数の増加にともなって増えており、令和元年度決算額では53億4,270万円となりました。前年度と比較すると、2億4,900万円(4.9%)増加しています。

歳入		歳出	
国庫・府支出金	22億3,475万円	保険給付費(介護サービスにかかる費用)	53億4,270万円
支払基金交付金(40～64歳の方の保険料負担分)	15億2,728万円	地域支援事業費	3億4,598万円
介護保険料(65歳以上の方の保険料)	12億7,296万円	総務費	1億6,262万円
繰入金(市の負担金)	9億3,028万円	基金積立金	7,170万円
繰越金	4,108万円	諸支出金	1,098万円
その他	381万円	合計	59億3,399万円
合計	60億1,016万円		
		歳入－歳出	7,617万円

問合せ先 高齢介護課総務担当(1階③番窓口) ☎939・1164